

令和7年度 第2回松本市公民館運営審議会 会議要旨

開催日時 令和8年3月24日(火曜日) 午後7時00分から午後8時30分まで

開催場所 中央公民館(Mウイング) 大会議室3-2

出席者(敬称略)

委員 大蔵 真由美(委員長)、吉川 篤明、原 薫、輿 千津子、中島 麻衣、米田 美優、山口 茂、渡辺 直子、矢野 麻美、山崎 未央、前田 豊、松山 紘子
(欠席:安藤 隆子、馬場 英晃、山岡 京子、中田 安子、宮木 慧美)

事務局 生涯学習課・中央公民館 課長(館長) 廣田 圭男

生涯学習課 社会教育推進担当 係長 上嶋 秀俊、主査 浅井 勇太

1 開会

(進行 事務局 上嶋)

2 委員長あいさつ

(大蔵委員長)

3 会議事項

(1) 令和7年度生涯学習課・中央公民館重点目標の総括について

(事務局 浅井)

- ・ 令和7年度重点目標の総合評価、成果と課題について説明

委員からの意見等

- ① 若者のフリースペース事業の課題にある「ゆるやかな関係性」とは具体的にどのような状態を指すか。

(回答) 若者への空間提供にとどまらず、運営する大人が日常的な挨拶等からコミュニケーション量を増やし、お互いの関係性を徐々に築いていく状態。庄内地区のゴジラ製作では、松本工業高校の教諭や生徒との接点から、高校生が制作したゴジラの口が開く仕掛けや背びれを光らせる演出が加わった。

- ② 「ゆるやかな関係性」を築くためには公民館職員にオールマイティな能力が求められると感じる。必要なスキルとは。また、フリースペースの利用者層で多いのはどの世代か。

(回答) 住民同士はもちろん多様な主体とのつながりを構築する「調整力」や、住民に寄り添う「コミュニケーション能力」「対話力」が求められる。また、地域の社会教育の拠点として住民の主体的な学びを支える「実践力」も重要。利用層で多いのは高校生。利用率が一番高いのは第三地区公民館。郊外など利用が伸びない館もあるため、実施館の見直しも検討している。

- ③ 白板地区公民館の利用が少ないと感じているが、2年後に中央図書館に改修工事が入ると聞いている。中央図書館を利用していた若者は白板地区を含め周辺の地区公民館を利用す

るのではないか。先のニーズ等も把握しながら進めて欲しい。
(回答)ご意見として伺う。

- ④ Mウイングのフリースペースを利用する友人が多いが、他の地区公民館でも実施していることを知らない人が多くいた。また、大学生は学内の図書館で勉強する人が多いが、長期休業中は図書館も閉まってしまうため、どこかで夜遅くまで勉強したいと思っても地区公民館は19時までしか開放されていない。ダンスサークル等も屋外で活動している。潜在的なニーズはまだあると感じる。

(回答)引き続きニーズの把握に努め、効果的で適切な実施方法を検討したい。

- ⑤ フリースペースは市街地から離れた地区公民館の利用率が低い傾向と伺った。Mウイングや博物館の交流学習室などが需要超過している状況が仮にあるとすれば、まちの中を高校生の居場所として考えて欲しい。ユースセンターにも期待していたが残念。

(回答)ご意見として伺う。

- ⑤ あがたの森文化会館への指定管理者制度の導入を検討されたとあるが、その背景は。

(回答)重要文化財旧松本高等学校、講堂を適切に管理していくために、保存整備事業を文化財課に移管し、あがたの森文化会館の貸館、施設管理業務のみ指定管理者制度を導入することを検討した。しかし、資料のとおり文化財課は専門的見地からの指導・助言を行い、生涯学習課が引き続き保存活用事業を行う方針となり、指定管理者制度は当面見送ることとした。

- ⑥ 公民館活動への多様な住民参加とあるが、多様な人々が無理せず参加できる仕組みを作った先に、いわゆるソーシャルキャピタルをつくらうとしていると受け止めた。例えば外国人市民など、属性も幅広く捉えて包摂してほしい。

(回答)ご意見のとおり住民同士の信頼の広がりや、排除のない安心な社会の形成を目指していきたい。

- ⑦ ソーシャルキャピタルの醸成における公民館職員のあり方について、職員の人事異動は避けられないが、事業の継続性の低下や信頼関係のリセットなど、蓄積の断絶が起きやすい。

(回答)この後にご説明する諮問と答申にも関連するため、次年度に答申の内容を協議する際、あらためてご意見をいただきたい。

(2) 松本市公民館運営審議会への諮問内容について

(事務局 上嶋)

- ・ 諮問の内容、答申へ向けた進め方、スケジュール、参考資料について事務局から説明

委員からの意見等

- ① 答申をどう実務に落とし込むのか。

(回答)令和9年度に迎える松本市公民館発足 80 周年を前に、事業計画へ落とし込みたい。

- ② 次年度は全3回の会議日程となっているが、十分に議論を尽くせるのか懸念がある。学習を重ね、その過程を大切にする「松本らしさ」を損ねかねないのでは。会議回数を増やせないとなればビジネスチャットツール等の活用も検討してみてはどうか。

(回答)検討する。ツールを用いた資料提供や情報共有について研究したい。

4 その他

(事務局)

- ・ 事務連絡について

5 閉会

以上